



注目MODEL Special issue ポータブルオーディオ

## ポータブル・オーディオを楽しむなら ADLのオーディオグレードで揃えたい

イヤフォンやヘッドフォン、ポータブルアンプといったポータブル環境が充実してきた今、アクセサリにも大きな注目が集まっている。そんな中で、老舗の技術力を存分に発揮した製品群を展開するのがADLだ。その豊富なラインアップは、再生機以外のポータブル・オーディオ環境を、全てADLモデルで取り揃えることができるほど。では実際にオーディオグレードで環境を構築するとどうなるものか、そのサウンドをレポートしたい。

Text by  
**炭山アキラ**  
Akira Samiyama  
Photo by 田代法生



**ADL**  
**H118**

ヘッドフォン  
¥22,000 (税別)

**ADL**  
**X1**

USB DAC内蔵ポータブルアンプ  
¥39,800 (税別)

**ADL**  
**iD8-L**

両端L型Lightningケーブル  
¥7,800 (税別)



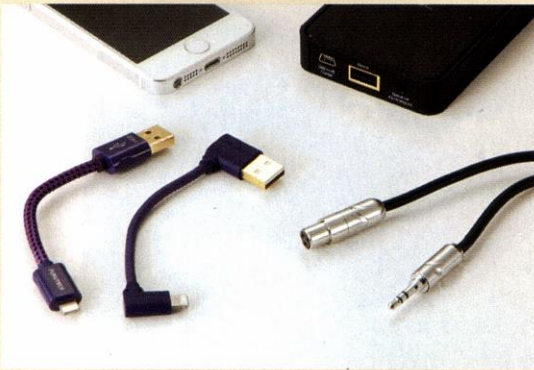
**ADL**  
**EH008**

イヤフォン  
予価¥20,000前後  
\*2014年2月末~3月発売



# 一度聴くと後戻りできなくなるサウンド ポータブル・オーディオはここまで到達した

●豊富なアクセサリにも注目



## グレードアップに欠かせない アクセサリという存在

オーディオにおいてアクセサリの重要性は高い。根本的に大きく音を変えるというのではなく、またそうであってはならないものがあるが、アクセサリがもたらす変化は確かである。好みの音への調整として有用なアクセサリだが、そこにはやはりオーディオグレードを用いたい。音は変化したがるが実は劣化していた、ということを守るためにも、例えばADLのラインアップのような、信頼性の高い製品を選ぶのが効果的だ。(編集部)



X1はiDeviceとの接続では48kHz/16bitまで対応。USB DACとしてPC接続した場合は192kHz/24bitまでの対応となる

## Specifications

[H118] ●型式：密閉ダイナミック型 ●ドライバー：口径40mm特殊高性能マグネット ●感度：98dB ●周波数帯域：20Hz~20kHz ●最大許容入力：200mW ●インピーダンス：68Ω ●イヤードライバー素材：ソフトレザー ●コード：片出し3.0mストレート(着脱式) ●質量：約245g(ケーブル含まず)  
[X1] ●DACチップ：ESS-ES9023 ●オペアンプ：TI-LMV832 Dual 3.3MHz EMI-Hardened Low-Power CMOS ●対応サンプリングレート：8/16/32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz ●ヘッドフォン出力レベル：40mW(12Ω)、65mW(16Ω)、100mW(32Ω)、107mW(56Ω)、36mW(300Ω)、19mW(600Ω) ●周波数特性：20Hz~20kHz ●サイズ：68W×16.5H×118Dmm ●質量：約142g  
[EH008] ●型式：ダイナミック型 ●ドライバー口径：8mm(中低域用)、5.8mm(高域用) ●感度：100±3dB SPL ●周波数帯域：20Hz~20kHz ●インピーダンス：19Ω ●コネクタ：24k金メッキステレオ3.5mmL型プラグ ●コード：α-OFC素材ケーブル(1.3m) ●質量：約15g(ケーブル含む)  
[ID8-L] ●導体：28AWG α-OCC素材を銀コーティング ●構造：三重シールド構造 ●シース：RoHS指令適合PVC ●コネクタ：24k金メッキ ●ケーブル径：φ3.8mm ●ケーブル長：7cm(ケーブルのみ)、10cm(コネクタ含む) ●取り扱い：フルテック様

## ADLブランドで揃える ポータブル・オーディオ環境

昨今はポータブル・オーディオが活発な商品展開で、ヘッドフォンなどは量販店の巨大なフロアを占め、ヘッドフォンアンプも可搬型の商品が激増、今や電車内での「ピュアオーディオ」体験はまったく珍しいことではなくなったようだ。そんな中で、スマホとポータブル・ヘッドフォンアンプ(以下ポータン)をつなぐためのごく短いケーブルや、ヘッドフォンのリケーブルといったジャンルに強みを発揮するアクセサリ・メーカーがこのところ台頭してきた観がある。新興の社も多数に上るが、老舗のフルテックがADLブランドで展開している製品群の充実ぶりは、一段と目を引くものがある。

今回の試聴で「主役」というべきは、ADLのUSB DAC内蔵ヘッドフォンアンプX1であろう。昨今はスマホや携帯音楽プレーヤーでもハイレゾが再生できるものがいくつか現れてきたが、本機は192kHz/24bit対応のポタ

アンである。また、新しい世代のiOS機器は接続端子がライトニングと呼ばれる形状に変わったが、それとUSBをつなぐケーブルにまだまだ良品が少ないのは悩みの種だった。ADLのID8・Aはそんな業界に風穴を開ける新製品で、両端がL型になったバージョンもあるのが嬉しい。

## ポータブルということを知る 本格派のオーディオサウンド

まずはiPhone5からiD8・AでX1につなぎ、ゼンハイザーのHD650で音を聴く。MP3から聴いた。クラシックは「これがMP3? これがポータン?」というスムーズで大スケールの音を聴かせる。ジャズは半世紀前のくすんだ空気が見えるような本格派の再現を聴かせる。ポップスはまるでやがて軽く弾けるような表現がよい。試聴トラックは192kbpsで収録していることもあり、高域方向の粗さ、汚さが耳につくことはそれほどない。

ここでヘッドフォンを同社のHD650に交換した。価格的にはHD650より数段下のランクだが、明るく伸びやかで抜けの良いサウンドは大いに買える。クラシックのスケール感やオケの編成が見え

るような解像度、ジャズの年月に燻されたような渋み、ポップスの子犬が駆け回るような楽しさを存分に表現するのは大したものだ。

続いて48kHz音源を聴いてみる。クラシックは音場空間の広大さ、澄み切った空気の質感などがくっきりと表現されるのに驚く。相当の解像度とレンジの広さ、揺らぎのなさを保持していなければこの表現はかなわない。ジャズはクールで明晰なギターに切れ味鋭くパワフルなベースが絡む。ポップスは歌い手との距離がグッと近づいたような質感が素晴らしい。

続いてライトニング・ケーブルを上級のGT8・Aに交換、クラシックは音像が遙かに引き締まり、音場の広さもさらに増した。この差を聴いてしまうと、後戻りはできなくなる。ジャズも楽器の質感が生々しさを数段増し、ポップスは歌い手の情感が濃くなった。

最後に同社のイヤフォンEH008をつないでみたが、この小さなポディから生き生きとした音楽がほとばしることときたらどうだ。最低域の量感こそ大型オーバーヘッドにかなわないが、十分にオケでも楽しめる器の大きさは一流だ。トータルでやや若者向けか。ともあれ、いいイヤフォンである。